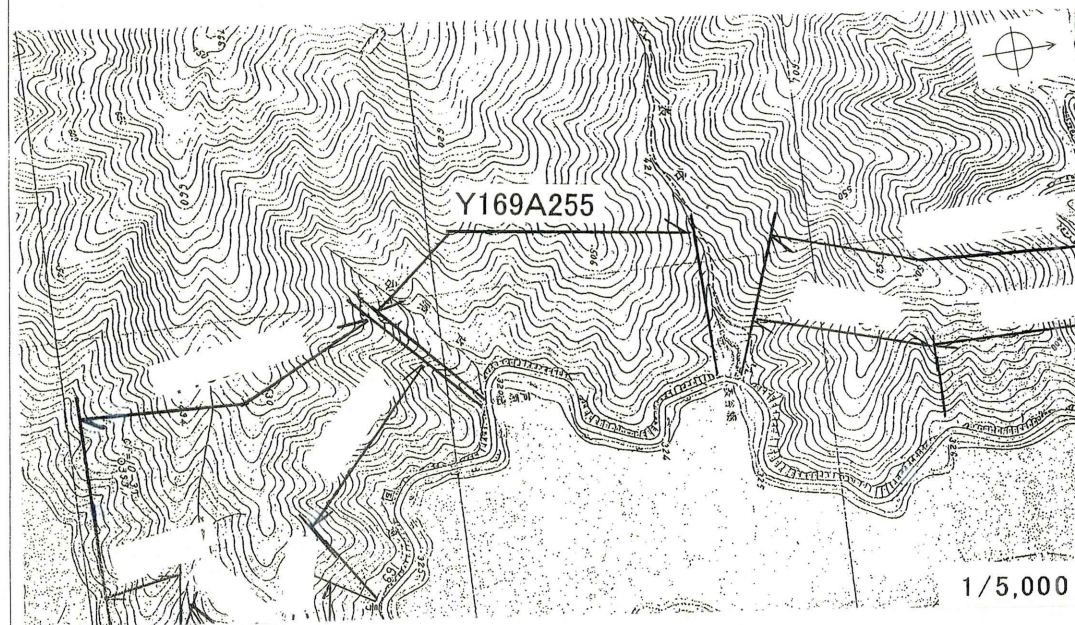


箇所別記録表

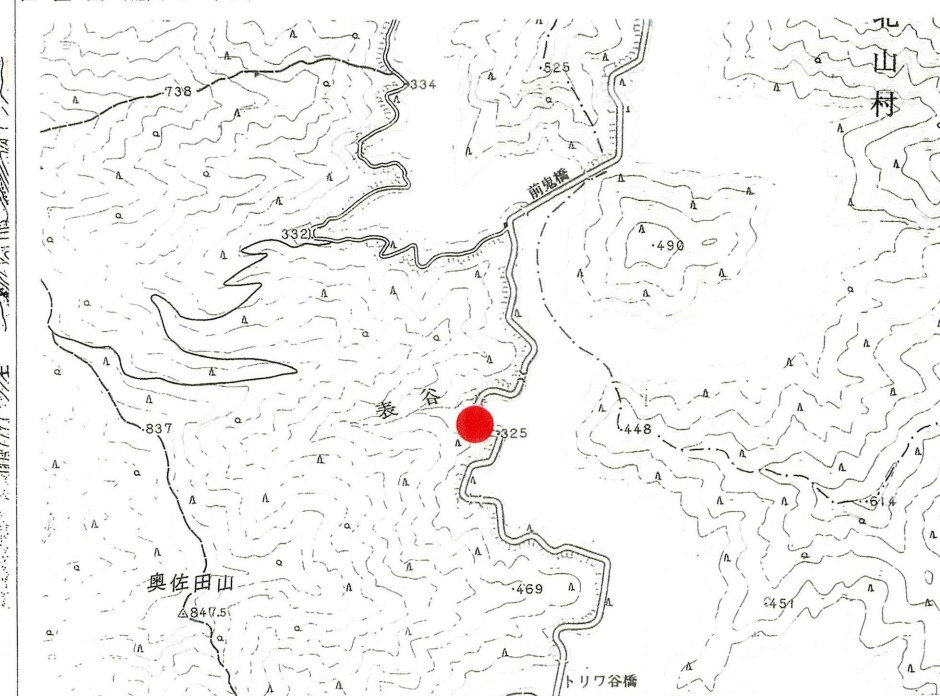
地建・都道府県等名	奈良県
管理機関名	吉野土木事務所
管理機関コード	2900090

施設管理番号	Y169A255	点検対象項目	落石・崩壊	路線名	国道169号	距離標(自)		(至)		上・下・他	延長	380 m	
事業区分	一般・有料	道路種別	一般国道 (指定区間外)	現道・旧道区分	現道	所在地	吉野郡下北山村上池原	位置目印		北緯	34° 3' 36.0"	東経	135° 58' 14.0"
事前通行規制区間指定	有(通行・特殊)	無	規制基準	連続 110 mm	時間 25 mm	交通量	平日 1,256台/12h	休日	1,970台/12h	DID区間	該当・非該当	バス路線	該当・非該当
											迂回路	有・無	

現況写真・スケッチ (既設対策工、位置目印との位置関係がわかるもの)



位置図 (縮尺 1/25,000)



特記事項	
点検実施:	H 15 年 1 月 24 日 (天候: 晴・曇・雨)
調査方法:	踏査
所見 (評価理由)	無処理の切土法面は亀裂が発達し、剥離型落石や小規模な滑落崩壊が発生している。一部にやや規模の大きな岩塊の抜け落ち跡も見られる。法面の風化・脆弱化が進行すると、表層崩壊を引き起こす可能性があり、法面保護工が必要である。吹付法面は顕著な変状はなく概ね健全である。上部斜面には不安定な浮き石が多く見られる。
被災履歴	有 (1. 被災履歴記録表参照、2. 詳細不明) 落石) ・ 無 (H2年度以降)
重複点検対象項目	対応施設管理番号:
有・無	落石・崩壊・岩石崩壊・地すべり・雪崩・土石流・盛土・擁壁・地吹雪・その他
平成2年度点検結果	ランク: (I・II・III・IV) 対応: (完了・施工中・未着手)
平成8年度点検結果	評点 (70 点) 総合評価: 対策が必要と判断される 防災カルテを作成し対応する・特に新たな対策を必要としない
予想被害規模	切土法面の小崩壊 (150~450m ³)
提案対策工	工種: 吹付工+ロック 規格: ポケット式 ネット工 数量: 6625m ² 概算工費: 133 百万円
地震時の安定性 (落石・崩壊のみ)	安定・不安定

安定度調査表（落石・崩壊）

点検者	脇阪 良男
所属機関	サンコーコンサルタント㈱

【要因】 (Ai)

項目	要因	のり面		自然斜面	
		評点区分	配点	評点区分	配点
地形	崩壊を 持つ 地形 G1: 崖錐地形 G2: 崩壊跡地 (<u>緊急線明瞭</u>) G3: 台地の裾部、脚部浸食、 (<u>オーバーハング</u>)、 <u>集水型斜面</u> 、 土石流跡地など G4: (<u>尾根先端など凸型斜面</u>) <u>オーバーハ</u>	G1に該当する		G2の内 複数地形該当	3
		G1に該当せず	3	G2の内 1地形該当	(2)
		G2,3の内 複数地形該当	(3)	G2には 該当なし	0
		G2,3の内 1地形該当	2	G1,3の内 複数地形該当	(3)
土質・地質・構造	崩壊の土質 浸食に弱い土質 水を含むと強度低下しやすい土質 その他 崩壊の岩質 割れ目や弱層の密度が高い 浸食に弱い軟岩 風化が早い岩質 その他 崩壊性の構造 流れ盤(層理面、弱線) 不透水性基盤上の土砂 上部が硬質/脚部が脆弱な岩 その他	顕著	8	顕著	2
		やや顕著	4	やや顕著	(1)
		該当せず	(0)	該当せず	0
		顕著	(12)	顕著	(8)
表層	表土及び浮石・転石の状況 浮石・転石が不安定～やや不安定	不安定	(12)	不安定	(2)
		やや不安定	6	やや不安定	12
		安定	0	安定	0
		該当する	(12)	該当する	(24)
状況	湧水状況 表面の被覆状況	湧水あり	8	湧水あり	4
		しみ出し程度	(4)	しみ出し程度	2
		なし	0	なし	(0)
		裸地～植生主体	(5)	裸地～植生(草本)	16
形状	勾配(i)、高さ	複合(植生・構造物)	3	複合(裸地・草本・木本)	(10)
		構造物主体	1	木本主体	6
		H>30m	18	H>50m	(10)
		H≤30、i>標準	15	高30≤H≤50m	8
変状	当該のり面斜面の変状 崩壊・亀裂・はらみ出し・ 根曲り・倒木・亀裂・ <u>(通口亀裂)</u> ・その他対策工の変状 隣接するのり面・斜面等の変状 (<u>落石</u>)・崩壊・亀裂・はらみ出し・その他の変状	複数該当・明瞭なものあり	(12)	複数該当・明瞭なものあり	(10)
		あり・不明瞭なもの	8	あり・不明瞭なもの	5
		なし	0	なし	0
		複数該当・明瞭なものあり	(5)	複数該当・明瞭なものあり	(4)
合計	のり面:	73	点 (A1)	自然斜面:	88
					点 (A2)

【対策工】 (Bi) = (Ai) + α または (Ai) × 0

既設対策工の効果の程度	点数(α)	評点	
想定される落石・崩壊を充分に予防している。 もしくは、それが発生したとしても充分に防護し得る。	×0点	のり面	斜面
想定される落石・崩壊をかなり予防している。 もしくは、それが発生した場合、かなり防護している が万全ではない。	-20点		
想定される落石・崩壊を一部予防している。 もしくは、それが発生した場合、かなり防護している が、その他に対しては効果がない。	-10点	○	○
対策がなされていない。 もしくは、なされていても、効果が全くない。	±0点		
合計		(B1:のり面) 63点	(B2:斜面) 78点

【履歴】 (C)

*最近の対策実施以降、落石・崩壊が当該のり面・斜面等で発生していない場合には、履歴からの評価は実施する必要なし。

→(C)を0点とする。

被災の頻度・程度区分	配点	評点
最近の対策以降、道路交通への支障が生じたことあり。<対策工の効果なし>	100点	
交通への支障はないが路面に達する比較的大きな落石・崩壊の履歴あり。 <対策工が万全ではない>	70点	
法面・斜面先にとどまる程度の小規模な落石・崩壊の履歴はあり。<対策工の効果はあるが、追加対策工が必要と思われるもの>	40点	○
(C)		40点

(D)=MAX(B,C)

履歴からの評点 (B)=MAX(B1,B2)	78	点
履歴からの評点 (C)	40	点
(B)と(C)の内、大きい方 (D)=MAX(B,C)	78	点

【総合評価】

対策	判定
対策が必要と判断される。	○
防災カルテを作成し対応する。	
特に新たな対策を必要としない。	

【地震時の安定性】

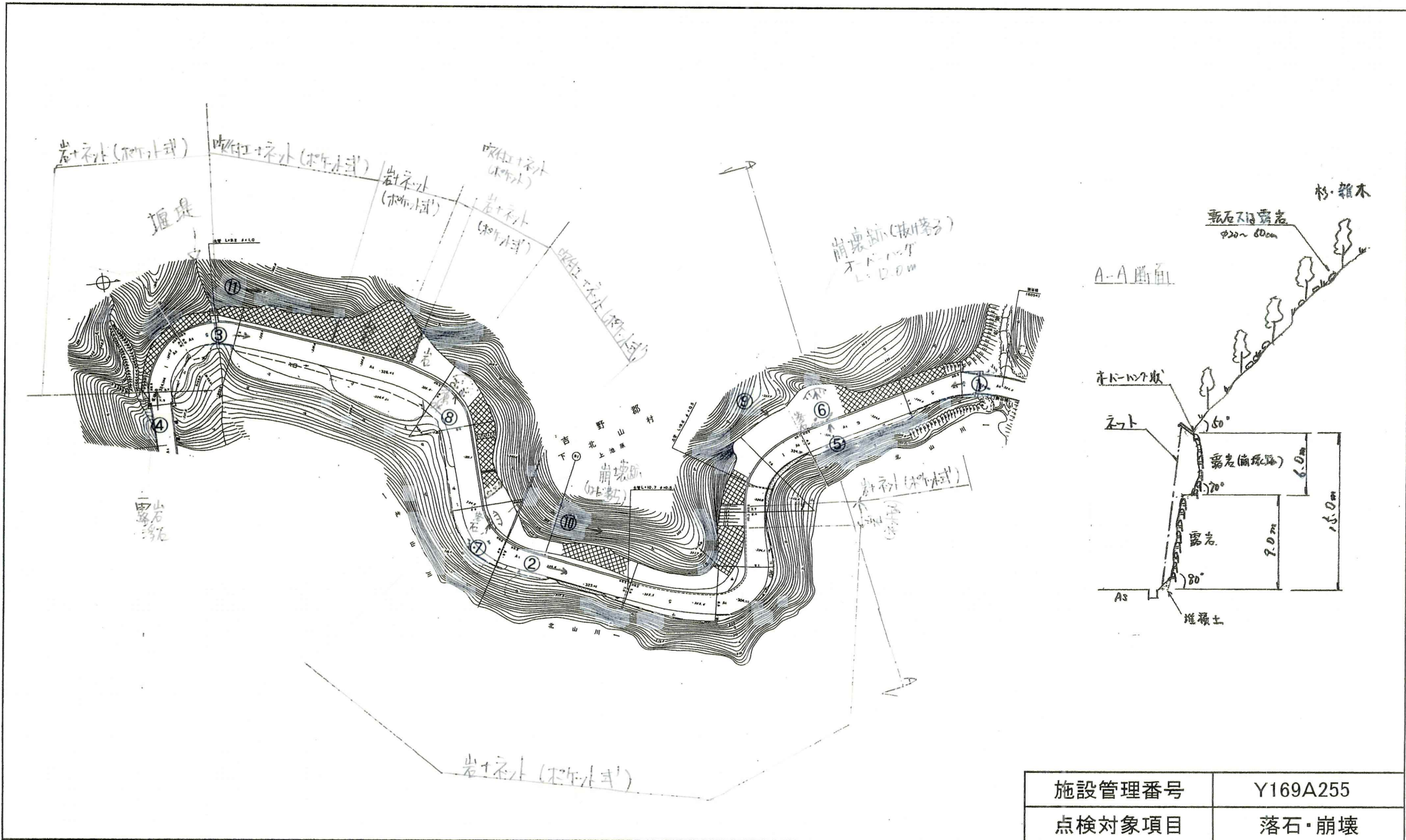
安定	判定
不安定	○

* 地形でG4または浮石・転石が不安定な場合は、不安定欄に○印をつける。

注) ()内は各項目の満点を示す。

該当する場合は配点欄に○印をつけると共に点数を記入する。

不明な点は中間的な値を採用する。



施設管理番号	Y169A255
点検対象項目	落石・崩壊



①全景(始点側)



②区間中央より始点側を望む

施設管理番号	Y169A255
点検対象項目	落石・崩壊



③区間中央より始点側を望む



④全景(終点側)

施設管理番号	Y169A255
点検対象項目	落石・崩壊